

古民家納屋を再活用した三世代を繋ぐ 地域の拠点づくり

NPO法人 さぬきっずコムシアター【香川県丸亀市】



団体設立経緯

子どもたちには創造性豊かな体験の場と、たくましく大きな夢が必要です。子どもを取り巻く環境の変化を危惧する子育て中の母親たちによって、舞台芸術鑑賞を活動の軸とした「丸亀子ども劇場」を1983年に設立いたしました。

2007年9月には、子育て家庭の社会的課題に向き合い、子どもも大人も共に育ち合う環境づくりをミッションとした「NPO法人さぬきっずコムシアター」を設立し、現在に至ります。

地域概要

丸亀市は、香川県の海岸線側ほぼ中央部に位置する県内第2の地方都市です。古くは、丸亀

設立年月
メンバーナンバー

1983年3月(2007年9月法人化)
正会員45人、参加会員96人、
賛助会員36人

代表者名
連絡先

高橋 勝子 (たかはし・かつこ)
〒763-0082 香川県丸亀市土器町東
2丁目248番地

電話 / FAX 0877-25-0691

Eメール kgkagawa@io.ocn.ne.jp

ウェブサイト <http://sanukids.org/>

Facebook ページ

<https://www.facebook.com/sanukids/>

【団体のミッション】

私たちは、子どもとおとなが共に育ち合う環境づくりを目的とし、五感を使う創造性豊かな体験や様々な人々との出会いを大切にした活動に取り組み「感性」や「生きる力」を育んでいます。また、みんなが集え支え合える居場所づくりを行っています。



藩の城下町であり、瀬戸内の海上交通の要衝として栄えた、歴史と自然が調和した田園文化都市です。自然災害も少なく気候も穏やかですが、全国的な傾向でもある、少子高齢化やそれに伴う地域のつながりの希薄化、子どもの貧困という社会的課題は当市においても徐々に顕在化してきています。

そんな丸亀市の東部に位置し、新興住宅地域の中でも、古くから住む住民が多い区域で活動しています。

活動に至った理由や背景

当団体は、乳幼児親子が集う「子育てひろば」や小学生の「放課後子供教室」といった事業を展開しています。その中で、地域住民には転勤族や核家族が多く、世代間の交流が少ないと感じていました。また、拠点の近隣には高齢者世帯が多くあり、閉鎖的で孤立化しやすい状況がありました。

誰もが主体的に関われるスペースがあれば、そこが居場所となり、世代を超えた交流や活動

に取り組むことで、共助の関係性も深まるのではないかと考えました。

活動内容と成果

—納屋の改修前の大さんの理解と片付け—

地域の居場所となる場所の候補は、団体拠点横にある築50年を超える納屋。内部は廃品が山積みで、それを整理し片付けることについては、当初は大家さんの理解が得られてはいませんでした。

今回、この助成が決定したことにより夢が具現化し、大家さんの賛同も得られ、一気に実行へと進んでいきました。リノベーションの改修工事に関しては、四国ポリテクカレッジの亀山啓司先生の指導協力が得られ、亀山ゼミの研修課題としてゼミ生の方々にも関わっていただきました。

点であった個々の地域の人たちがつながっていき、1つの目的に向けて動き始めました。

まずはボランティアを募り、学生の方々も一緒に納屋の中の物品を運び出しました。ホコリ



をかぶりながら出し切ったものは6トンにもなりました。何もなくなった納屋は、木組みの美しい温かい空間でした。

—「リノベーションワークショップ 納屋の活用をみんなで考えてみよう—

亀山先生の指導の下、『リノベーションワークショップ』を2回開催しました。

「どんなことに活用したいか?」、「どんなふうに改修していきたいか?」という観点で参加者を一般公募し、リノベーションに興味がある市民、丸亀市職員、議員、社会福祉協議会職員、子育て中の親、小学生、学生など、2日間延べ60名近くが集まりました。ポリテクカレッジの学生さんが作製した納屋の模型を囲んで、熱く意見を交換。実際のリノベーション作業に向けて、各々が場に対する思いを確認する機会となりました。

みんなで考えた改修案では、多様な視点での使いやすさや心地良さに工夫を凝らしたアイデ

—改修前の掃除—

長い間、放置されていた納屋はホコリや汚れがひどく、小学生の子どもも一緒に掃除や納屋の水洗いに励みました。水洗いすると木材の色が美しく出てきて、もっと磨いてあげれば変わるのでと、みんなで仕事の合間に梁や柱をサンダーで磨き上げました。手間のかかる作業でしたが、梁は木目がきれいに浮き出て、50年以上も経っているように見えなくなりました。

—いよいよリノベーションです—

トイレや洗面所を設置するための配管整備や、床になるコンクリート張りなど、基礎工事はプロにお願いしました。作業の間に、モルタルとコンクリーの違いや特性などを教えていただき、新しい知識を得ることができました。

車イスで入れるトイレ、洗面所、収納スペ

ス、座りやすいベンチの設置、土間と床の工夫、2階に上がる階段、天井の吹き抜け、入口の引き戸変更、といった様々なアイデアを、大工さんと一緒にひとつずつ話し合いながら進めていました。

壁は腰壁を張り、上部は漆喰塗りました。漆喰塗りは、3才の幼児から中高生の子ども、シルバー世代の大まで、延べ80名近くの協力者で取り組みました。それぞれに模様を描いたり名前を刻んだり、思い思いに楽しんで挑戦。『人生の中で初めて体験する漆喰塗り』と『建物の中に残り続ける思い出』に、みんなが胸弾ませました。

高齢の方も座りやすいベンチは、高さや形にこだわりました。ちょっと低めで丸くカーブを付けた、気持ちのいい座り心地です。階段も緩やかな傾斜にして、上り下りをしやすくしました。落下防止にもなる手すりの格子は、大工さんが色違いの留め具にしてください、アクセントになっています。

収納スペースは、バンド活動を始めた子どもたちの楽器収納のために、楽器の高さに合わせて板を設置しました。出し入れが楽にできるような作りになっています。

天井が低いため床上げができず、モルタルの上に直接クッションフロアを貼る方法を探りました。シートは業者からの寄付で貰い、貼り作業は父親や帰省中の青年の協力で行いましたが、「こんなに大変で頑張ったことはない」と言葉が漏れるほど



2017/06/18





の、知力と体力の限りを尽くした作業でした。

2階の床板張りは、「トントンワークショップ」と称し、子どもから大人までが楽しく釘を打ち込みました。三和土は、子育てママの提案でビー玉を入れるアイデアを取り入れ、子どもを背負い自ら施工にも関わりました

開放感を出すために吹き抜けを作ったり、1階から梁が見えるようガラスを取り付けたり、やりながら変更していった部分もあります。

納屋の片付けからアイデアを出し合うワークショップ、そして施工と、全てを子どもから大人まで、それぞれができることで関わり、みんなで進めていったリノベーション。多くの人の思いと協力と底力で乗り切った、厳しくも楽しいプロセスでした。

一地域のみんなの居場所「な～や」の活動一

●幼児のアート体験「でっ～かい絵をかこう！」
屋根のある広いスペースは、夏も涼しく、改

修途中の廃品が片付いただけの納屋でアート体験を楽しみました。

●マママルシェ

子育てママたちからレトロな味のある納屋でのマルシェ開催の提案があり、実現しました。納屋オープンの「イベント」として取り組み、80名ほどの来場者でにぎわいました。

●納屋オープンニングイベント

建物の傷みなどで工事が遅れ気味でしたが、年間計画に沿って無事オープンの運びとなりました。当日は、子どもたちや子育てママのバンド演奏がイベントを盛り上げました。多世代が出会い楽しむ場にふさわしく、もちつき、ぜんざいや甘酒の食バザー、昔遊びやくじ引きなどを行い、雪もちらつく寒い中でしたが、380名ほどの方々が来場。大いににぎわいました。

納屋の中は、小学生たちの手による輪つなぎで装飾。リノベーション作業のスライド上映、子どもたちのアート作品展示、昔遊びコーナー

やくつろぎの場として、スペースいっぱいをふんだんに活用しました。

誰もが集う『地域のみんなの居場所「な～や』』のオープニングには、丸亀市長はじめ行政関係者も臨席されました。市民団体の集客力や人々の関心の高さに驚かれた様子でした。

●世代を越えて共に学ぶ食育講座

空調の取り付けが未完なので冬の寒さは厳しいですが、まずは当初のワークショップで挙がった「な～や」での企画を実行しています。

味噌づくりなど、シルバー世代から子育て世代が教わる食文化を次世代につなげています。3月企画の「キムチづくり講座」は、天候不良のため野菜が手に入らず、仕方なく来年に持ち越しました。

●ボランティア養成講座

「な～や」が地域ボランティアの基地として場の機能を持ち、地域の埋もれたたくさんの人材を見出すために、まちづくりや学校支援、み

んなで地域を支える仕組みづくりを考える講座を開催しました。

課題と解決方策

1. 近隣住民への理解

静かな住宅地域という環境の中、多くの人が集まるこの場への理解や、施工に際しての工事車両の出入りに関しては慎重な配慮が必要です。ご近所にまめに足を運び、顔を合わせ、会話を通じて理解を得ました。

2. 建物の傷み発覚、予算の増大

古民家納屋は、調べていくと柱が腐っていたり、壁が歪んでいたり、雨漏りがしていたりと、傷みがかなりあることがわかりました。柱の腐った個所には新しい柱をはめ込んでつなぎ、壁の隙間は壁土で埋め、漆喰を塗り強度も高めました。雨漏りに関しては、プロの手に委ねました。

思った以上に傷んでいたことで工事が遅れたり、予算の増加にもつながりましたが、早朝や夕方、休日を使い、みんなで地道に補修作業を進めました。予算的な所は、大家さんの寛大な理解を得て、借用分を少しずつお返しすることになっています。

今後の予定

地域の方が自由に集える居場所として、高齢者や障害のある方、またその家族のためのサロンを開催。食を通したふれあいの場として、大家族的な雰囲気でのランチも定期的に提供していきます。

また、子育て親子のサークル活動や「こんなことしたい！」の実現の場として使えるように、「な～や」の使用貸出もします。

子どもたちが雨の日でも思いっきり遊べるようなスペース、中高生がふらっと立ち寄って勉強したり語り合ったりできるライブラリースペースづくりを目指して、現在は中高生と一緒に2階を整備しています。